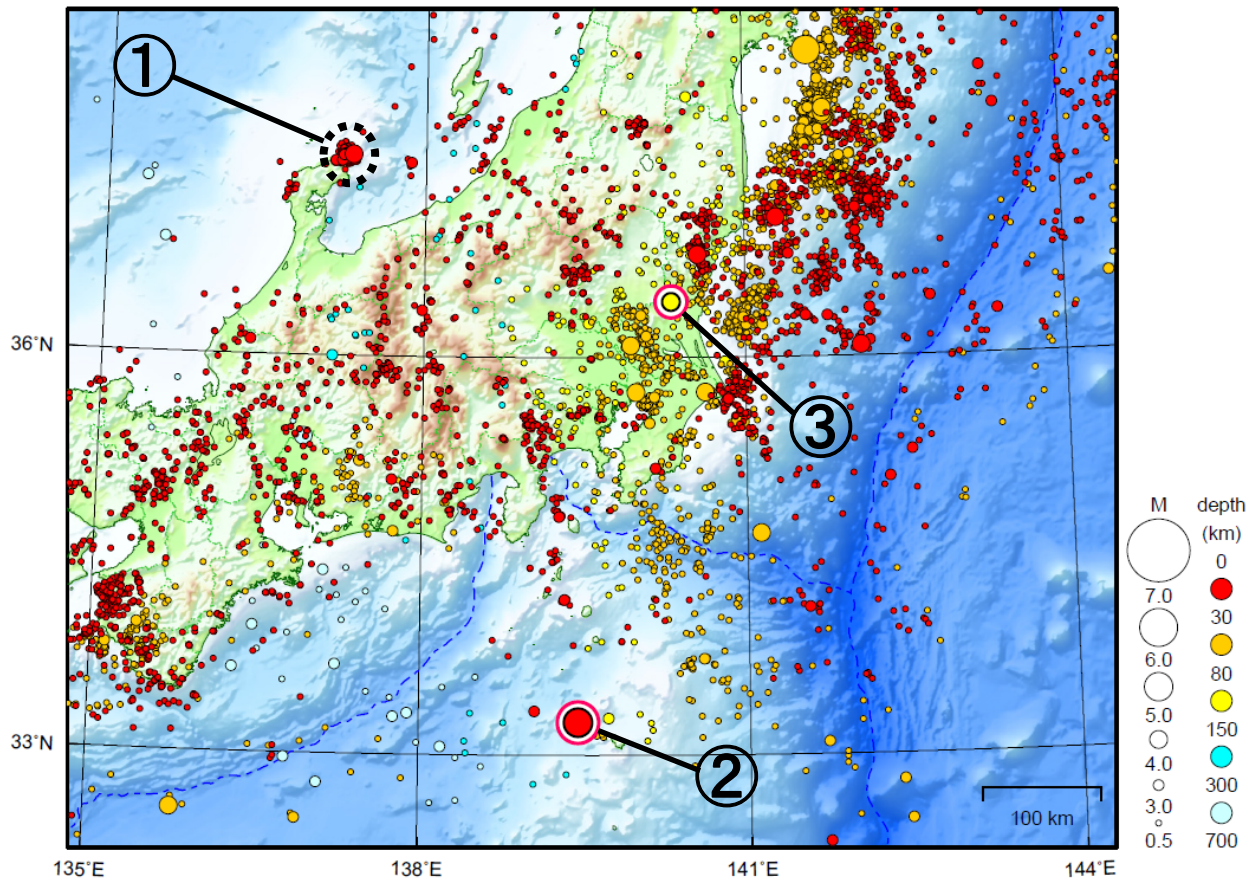


関東・中部地方

2023/03/01 00:00 ~ 2023/03/31 24:00

N=7731



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 石川県能登地方では3月中に震度1以上を観測した地震が16回（震度3：3回、震度2：1回、震度1：12回）発生した。このうち最大規模の地震は、29日に発生したM4.1の地震（最大震度3）である。

能登半島沖で発生した地震を3回含む。

- ② 3月2日に八丈島近海でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。
③ 3月24日に茨城県北部でM4.7の地震（最大震度4）が発生した。

（上記領域外）

父島近海では3月31日から地震活動が活発になり、3月31日から4月10日08時までに震度1以上を観測した地震が14回（震度3：2回、震度2：2回、震度1：10回）発生した。このうち最大規模の地震は、31日に発生したM5.7の地震（最大震度2）である。

〔上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

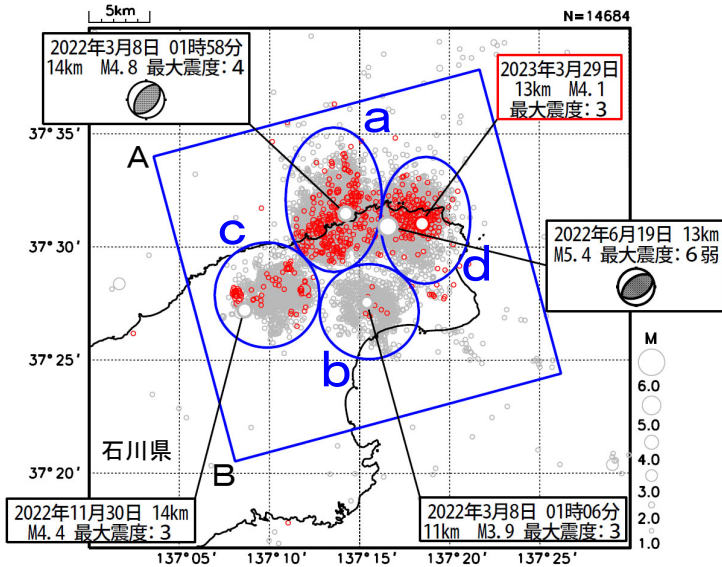
石川県能登地方の地震活動

震央分布図

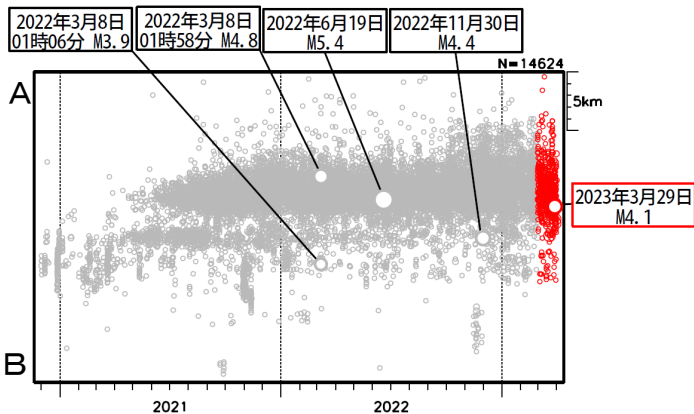
(2020年12月1日～2023年3月31日、
深さ0～25km、M $\geq$ 1.0)

2023年3月の地震を**赤色**で表示

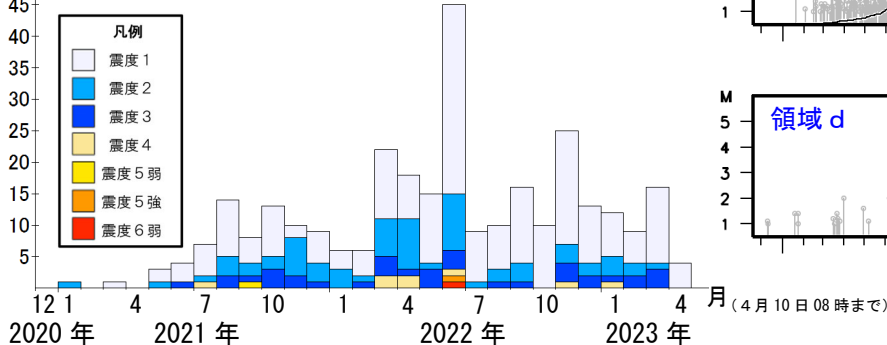
- ・ 黒色の吹き出し：領域a～dの各領域内で最大規模の地震
 - ・ 赤色の吹き出し：矩形内で2023年3月中の最大規模の地震
- 図中の発震機構はCMT解



上図矩形内の時空間分布図 (A-B投影)



矩形内の地震の月別震度別発生回数
(2020年12月1日～2023年4月10日08時)



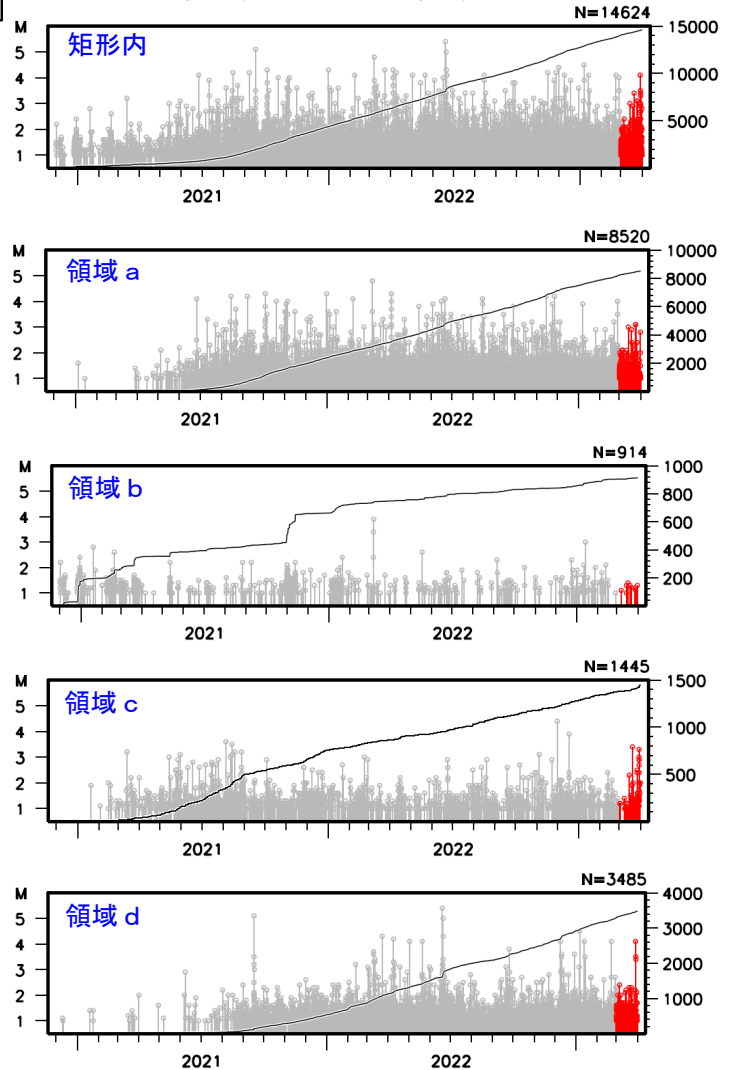
期間別・震度別の地震発生回数表

期間	最大震度別回数							
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	計
2020年12月1日 ～2023年2月28日	181	63	31	8	1	1	1	286
2023年3月1日～31日	12	1	3	0	0	0	0	16
2023年4月1日～10日08時	4	0	0	0	0	0	0	4
計	197	64	34	8	1	1	1	306

石川県能登地方 (矩形内) では、2018年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020年12月から地震活動が活発になり、2021年7月頃からさらに活発になっている。2023年3月中も活発な状態が継続している。2023年3月中の最大規模の地震は、29日に発生したM4.1の地震 (最大震度3) である。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2022年6月19日に発生したM5.4の地震 (最大震度6弱) である。

矩形領域内で震度1以上を観測した地震の回数は、期間別・震度別地震発生回数のグラフ及び表のとおり。

左図矩形内及び領域a～d内の
M-T図及び回数積算図
(2020年12月1日～2023年3月31日)



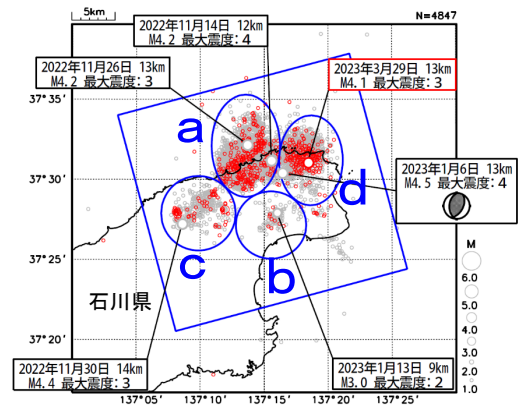
石川県能登地方の地震活動（最近の活動）

震央分布図

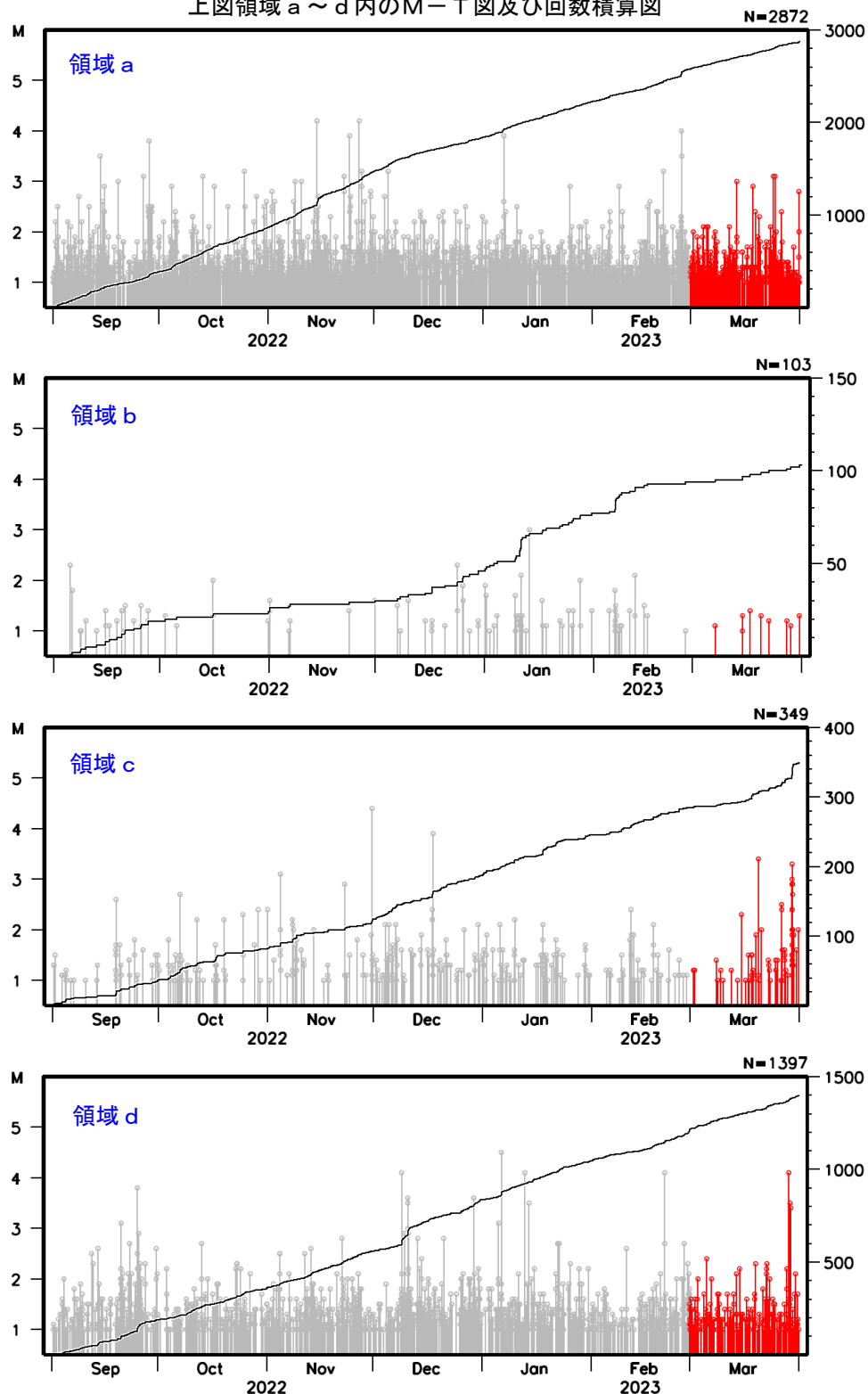
(2022 年 9 月 1 日～2023 年 3 月 31 日、
深さ 0～25km、 $M \geq 1.0$)

2023 年 3 月の地震を **赤色** で表示

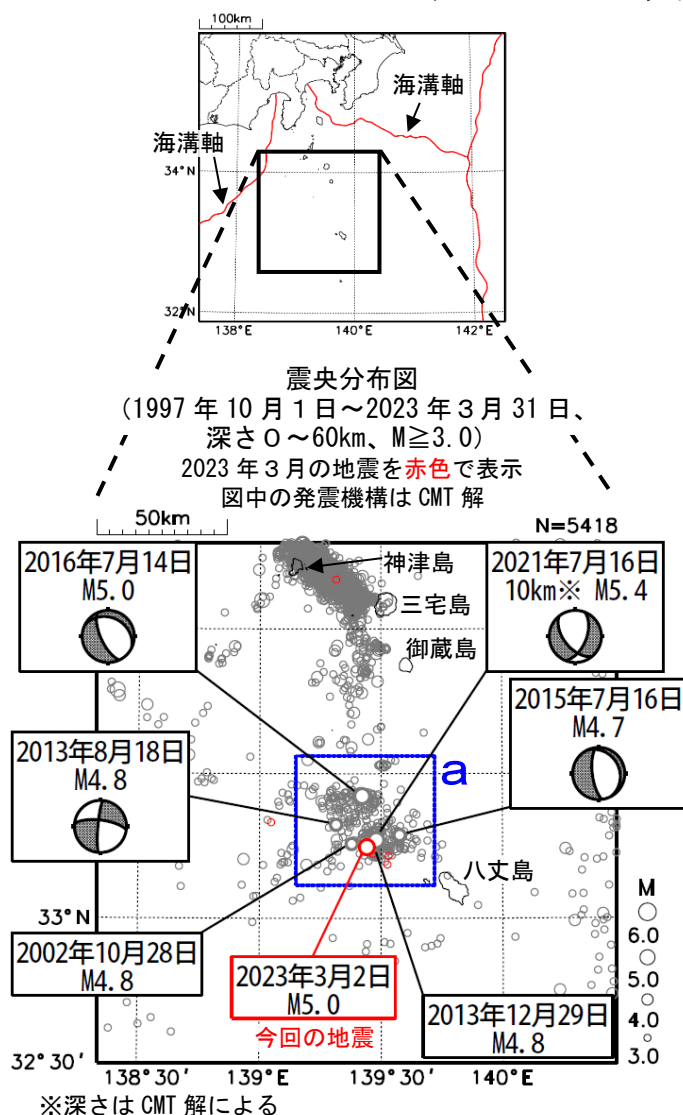
- ・ 黒色の吹き出し：各領域内で期間内の最大規模の地震
- ・ 赤色の吹き出し：矩形内で 2023 年 3 月中の最大規模の地震、
図中の発震機構は CMT 解



上図領域 a～d 内の M-T 図及び回数積算図



3月2日 八丈島近海の地震

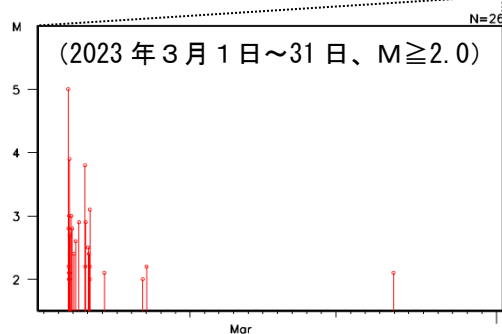
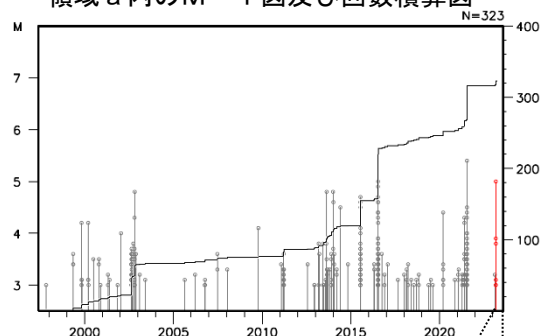


2023年3月2日15時47分に八丈島近海でM5.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。

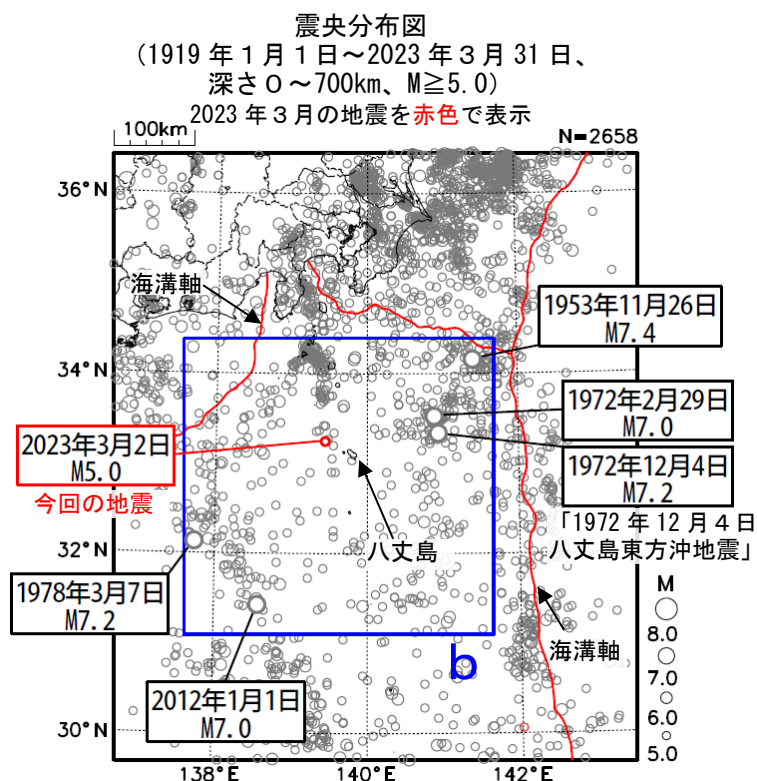
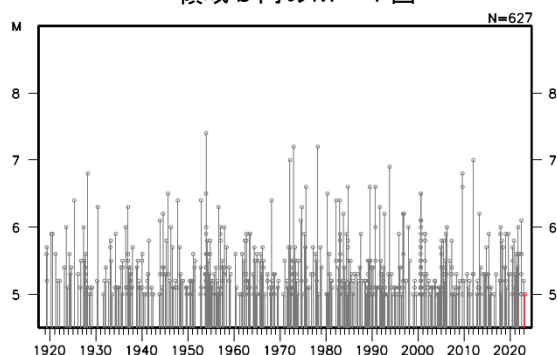
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では過去に何度かまとまった活動が発生している。2002年8月～11月の活動では、震度1以上を観測する地震が36回、2015年7月の活動では11回、2016年7月の活動では6回、2021年7月の活動では14回発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)ではM6.0以上の地震が時々発生している。1972年12月4日には「1972年12月4日八丈島東方沖地震」(M7.2、最大震度6)が発生し、串本町袋港で高さ35cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測した。またこの地震により、断水3,169世帯、土砂崩壊多数などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図

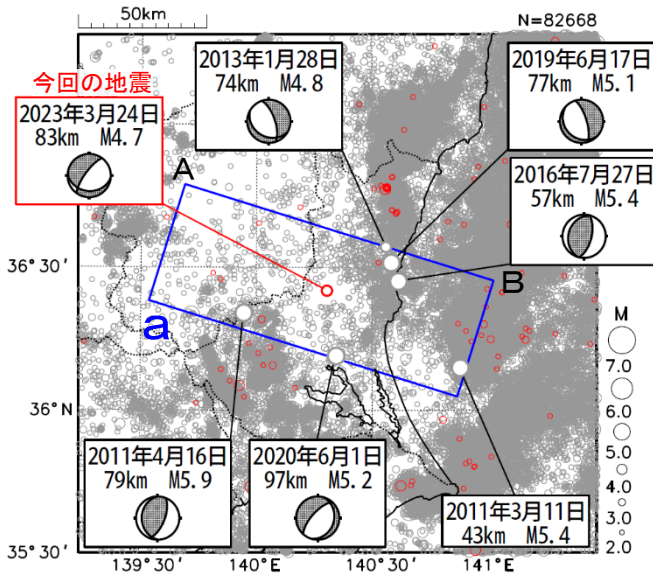


領域b内のM-T図



3月24日 茨城県北部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2023年3月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2023年3月の地震を赤色で表示

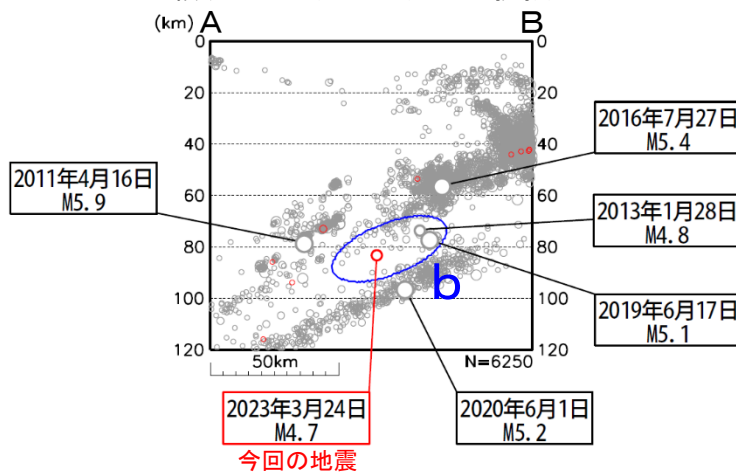


2023年3月24日16時25分に茨城県北部の深さ83kmで $M 4.7$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に張力軸を持つ型である。

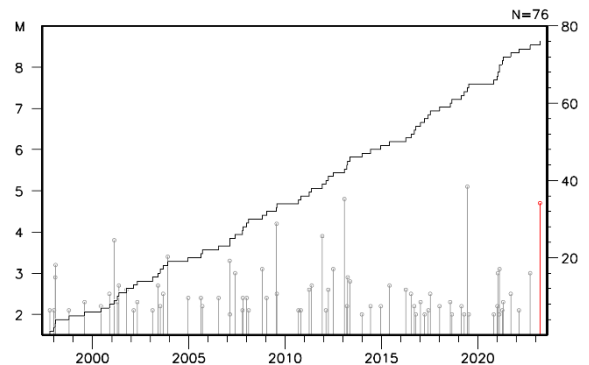
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、 $M 4.0$ 以上の地震がまれに発生している。2013年1月28日には $M 4.8$ の地震 (最大震度5弱) が、2019年6月17日には $M 5.1$ (最大震度4) が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。1930年6月1日に発生した $M 6.5$ の地震 (最大震度5) では、がけ崩れなどの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

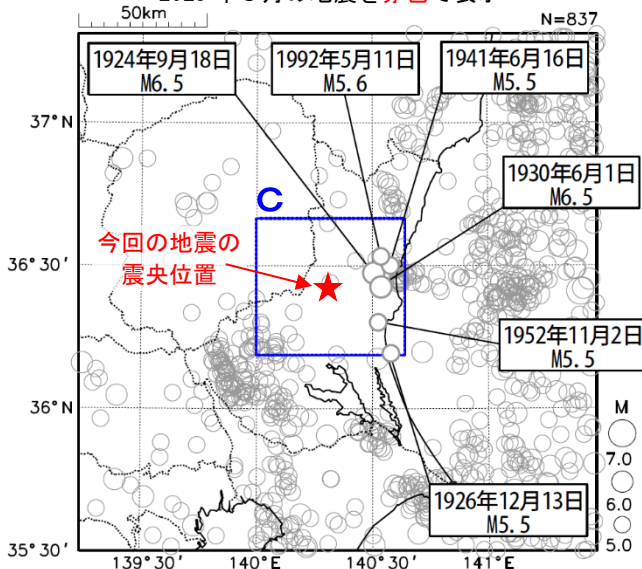
領域a内の断面図 (A-B投影)



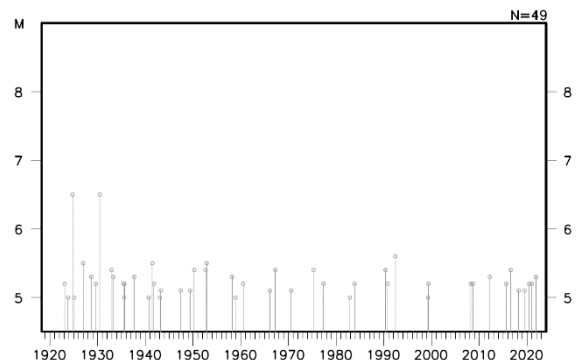
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2023年3月31日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2023年3月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図



父島近海の地震活動

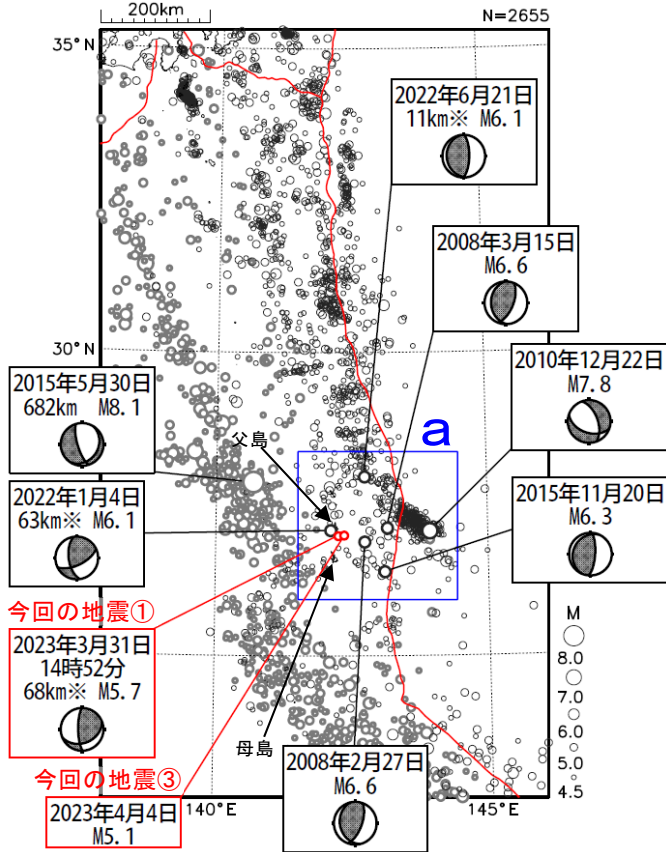
震央分布図

(1997年10月1日～2023年4月9日、
深さ0～700km、 $M \geq 4.5$)

2023年3月以降の地震を赤く表示

100kmより浅い地震を濃く表示

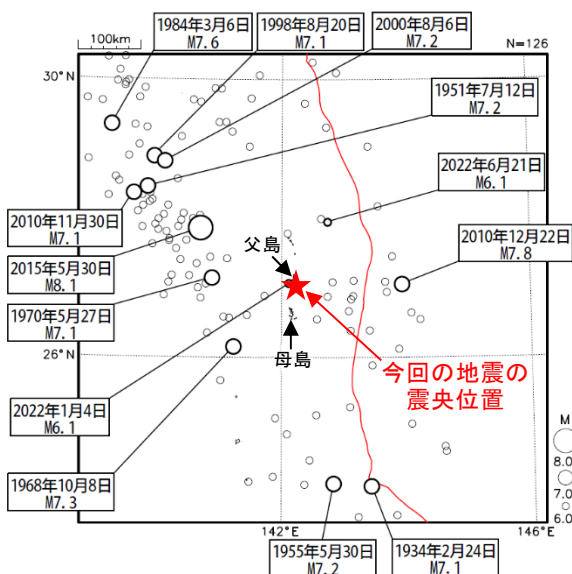
図中の発震機構はCMT解



※深さはCMT解による
赤線は海溝軸を示す。

震央分布図

(1919年1月1日～2023年4月9日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)



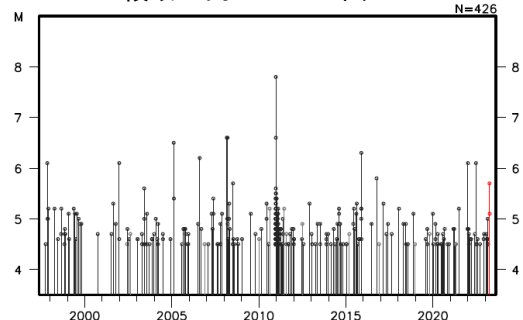
赤線は海溝軸を示す。

父島近海(領域b)では、2023年3月31日から地震活動が活発になり、4月10日08時までに震度1以上を観測した地震が14回(震度3:2回、震度2:2回、震度1:10回)発生した。このうち最大規模の地震は3月31日14時52分に深さ68km(CMT解による)で発生したM5.7の地震(最大震度2、図中①)である。この地震は太平洋プレート内部で発生した。この地震の発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、M6.0以上の地震が時々発生している。2010年12月22日のM7.8の地震(最大震度4)では、この地震により津波が発生し、八丈島八重根で0.5mなどの津波を観測した。

1919年以降の活動をみると、小笠原諸島周辺では、M7.0以上の地震が時々発生している。2015年5月30日の深さ682kmで発生したM8.1の地震(最大震度5強)では、この地震により関東地方で軽傷者8人などの被害が生じた(総務省消防庁による)。また、1984年3月6日のM7.6の地震(最大震度4)では、この地震により関東地方を中心に死者1人、負傷者1人などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

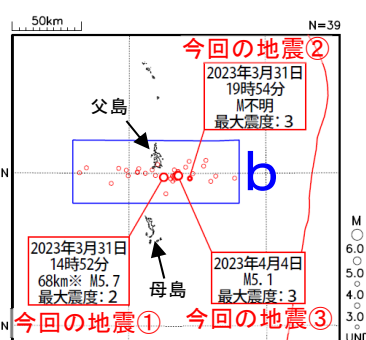
領域a内のM-T図



震央分布図

(2023年3月31日～4月9日、
深さ0～700km、 M すべて)

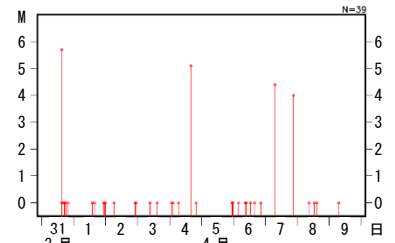
M不明の地震はM=0として表示



赤線は海溝軸を示す。

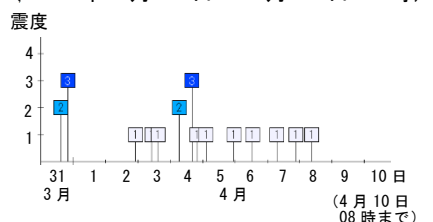
領域b内のM-T図

M不明の地震はM=0として表示



震度1以上を観測した地震の
発生時系列図

(2023年3月31日～4月10日08時)



気象庁作成